**ABC企画委員会**

「総会」、「DVD上映会」＆「講演会」のお知らせ

　2019年暮れに発生したコロナ禍も収束したかに見えますが、また新型インフルエンザ、感染症の発生が懸念されています。ロシア・ウクライナ戦争も3年目を迎え、今なお終結の見通しはたっていません。さらにイスラエル・ガザ戦争もアメリカのトランプ政権の誕生によって様変わりしそうな情況です。世界はますます混迷の度をましつつありますが、日本がこの国際情勢にどう立ち向かっていくのか、不信感、不透明感ばかりがつのります。

そして今年は敗戦後80年。「楽しい日本」などと能天気な発言をする現政権のリーダーには明確な将来のビジョンがまったく見えません。日本はどこへ行くのでしょうか。

「総会」後に学習会、講演会を企画しました。会員非会員は問いません、ぜひ、ご参加ください。

日時：2025年3月30日（日）　11時～16時30分

会場：中野区産業振興センター・大会議室　参加資料代：500円

　　　　　　　中野区中野2－13－14　　　　交通：JR中央・総武線「中野駅」南口下車　徒歩5分

■　**第1部**2025年「総会」　**11時～12時　　2024年活動報告＆25年度活動案**

■　**第2部**　DVD『「マルタ」と「ロームシャ」を鎮魂する詩』上映

**13時～14時15分**

※731部隊によって人体実験にされた「マルタ」とインドネシア・南方軍防疫給水部による人体実験犠牲者「ロームシャ」の真相・事実を詩、絵、歌で表現。

（製作：米国の原爆投下の責任を問う会　出演：松村高夫　倉沢愛子　悪魔の飽食を歌う東京合唱団）

* **第3部**講演会　**14時30分～16時30分**

　　**日本人にとって戦前戦中の「南方」とは**

**どのような世界だったのか**

**講師　田中寛（ABC企画委員会代表、大東文化大学名誉教授）**

要旨

アジア太平洋15年戦争の口火となった満洲事変（9.18事変）の勃発を危機の第一ステージとすれば、1937年の日中戦争の勃発は第二、第三のステージ、そして1941年の太平洋戦争の開戦は第四ステージと、手の付けられない段階に突入しました。日中戦争が泥沼化するにつれ、また日本の国際的孤立が進むと、「南方」（現在の東南アジア）への進出が大きな関心事となりました。長期戦に備えるための資源確保が最大の目的でした。一気に南方ブーム、南方熱が高揚し、北の生命線と同時に南の生命線とする大東亜共栄圏の旗印の下、軍政下では資源略奪のほか、日本語、日本文化普及とともに皇民化教育が浸透していきました。こうした実態を検証するため、当時の新聞記事を手掛かりに戦前・戦中の日本人にとって南方とはどのような世界であったのか、を探ってみたいと思います。これまであまり知る機会の少なかった当時の「南方」世界という。戦争の外縁を辿る作業は。今後の対東南アジア政策にとっても大きな意味があると考えます。

（本講演は去る2月28日に京都国際日本文化研究センター（日文研）開催のインドネシア大学とのワークショップでの基調講演をもとにしています）

主催　ABC企画委員会　**（A:核・原発　B：生物　C:化学兵器に反対する）**

**連絡先：小平市小川東町2－4－814　　電話/FAX：042（344）1430　/　080-5655-3354**